

# ウクライナ侵攻に反対

## 込められた反戦の願い

ロシアの人気キャラクター「チェブラーシカ」のデザインを考案した同国のアニメ映画監督、レオニード・シュワルツマン氏が7月2日に死去した。享年101。シュワルツマン氏は生前、ロシアのウクライナ侵攻に反対する声明文に署名していた。チェブラーシカの原作の日本語訳を手がけたロシア語通訳・翻訳家の児島宏子さん（東京都在住）は「チェブラーシカには反戦のメッセージが込められている」と指摘している。

た児島さんに「僕は戦争を知っている。二度と戦争は起こしてはならない」と話していたという。チェブラーシカの原作者はロシアの児童文学作家エドゥアルド・ウスペンスキー氏（1937〜2018年）。66年に刊行されたシリーズ第一作の初版本に描かれたチェブラーシカは、全身真っ黒でクマのような風貌だった。ウスペンスキー氏は本の中で、チェブラーシカを「目はミミズクのように大きく、ウサギのように丸い頭。尻尾はクマのように短くてふわふわ」と表現していた。

なったのは、シュワルツマン氏の功績が大きい」と話す。

戦後に国営アニメ制作会社「ソユーズムリトフィルム」入りしたシュワルツマン氏は、ロマン・カチャーノフ監督（1921〜93年）が69年にチェブラーシカをパペットアニメとして映画化する際、キャラクターのデザインを担当。大きな耳が特徴で愛くるしい現在のチェブラーシカの原形を作り上げた。シュワルツマン氏がチェブラーシカの「生みの親」とされるゆえんだ。児島さんは「チェブラーシカが癒やし系キャラとして世界的に親しまれるように

問題への批判、風刺も盛り込まれていた。

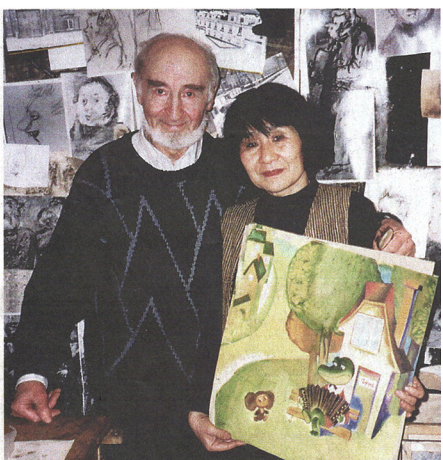
チェブラーシカを世に出してから半世紀。戦争の悲惨さを知るシュワルツマン氏は、亡くなる約4カ月前に起きたロシアのウクライナ侵攻に心を痛めていた。ロシアの良心的なアニメーターたちが侵攻直後に出した戦争反対の声明文にはシュワルツマン氏や、同氏を師と仰ぐアニメ界の巨匠ユリー・ノルシュテイン監督（80）（約1000人が署名した。プーチン政権が国内統制を強めるなかで勇気ある行動といえる。『人々や動物がみんな仲良く暮らす』というチェブラーシカの物語は基本的に反戦、平和がテーマになっている。登場する一人一人が相手の立場を考えると、ロシア文学のヒューマニズムにも通じる」と児島さ

んは語る。

チェブラーシカは日本でもファンが多い。2001年に東京のミニシアターでソ連時代の映画が公開されたのをきっかけに人気に火が付いた。その後、ロシア側からチェブラーシカの版權を得た日本の「チェブラーシカ・プロジェクト」のちに有限責任事業組合）がオリジナル映画の製作やグッズ販売などを行ってきた。しかし原作者サイドの版權は21年末で終了。公式ホームページやツイッターは閉鎖され、関連商品の製造も打ち切られた。

チェブラーシカ・プロジェクトの責任者をつとめてきた藤原博行さんによると、14年のロシアによるクリミア編入で日本でのチェブラーシカ関連ビジネスにマイナスの影響が出るようになり、さらに今回のウクライナ侵攻に伴う対ロシア経済制裁で版權の継続は難しいという。

ロシアでは23年1月にチェブラーシカの「実写版」新作映画の公開が予定されているが、日本での上映は今のところ見通せない。チェブラーシカが再び日露をつなぐようになるのはいつだろうか。【田中洋之】



シュワルツマン氏（左）と児島宏子さん＝モスクワ市内で2000年ごろ、児島さん提供



日本で最も人気のチェブラーシカは横浜市の横浜人形の家で2020年10月田中洋之撮影。ウスペンスキー氏のシリーズ第一作（1966年に描かれているチェブラーシカ